

～“ヒタチ”の話題をおとどけ～

No. **1**

ヒタチ通信

創刊しました！
これから定期的に日立市の
旬な情報をお届けします！



日立市長 小川 春樹

ひたちであそぶ！

特集

あなたはインドア派？ それともアウトドア派？

科学館サクリエ or 奥日立きららの里

かみね動物園
「レッサーパンダの竹林」

週末リフレッシュ
ひたちの遊び場

写真：日本最大級の科学体験ジャングルジム「ためしてハニカム」



上 / <きらら館周辺> 駄菓子屋、カフェ、宿泊施設や展望台を備えた園内のランドマーク。
右上 / <わくわくスライダー> 日本一長いスライダー (1,188m) から見える景色はまさに絶景。



奥日立 きららの里

東京ドーム10個分の敷地に、全長1,188mのわくわくスライダーや、ふれあい牧場、ドッグランなどが点在。オートキャンプ場やケビン棟での宿泊も可能で、家族で思いっきりレジャーを楽しめる。空気の澄んだ晴天の日には、富士山を遠望できる隠れたビュースポットでもある。



駄菓子屋 きらら商店・ きららカフェ



令和3年春にオープンした「駄菓子屋きらら商店」と「きららカフェ」。品揃え豊富な駄菓子と、オムライスやナポリタン、ふわふわの窯焼きホットケーキを楽しむことができる。



オート キャンプ場



全20サイト全てにAC電源が付き、炊事棟・シャワー棟・トイレ棟も隣接することから、初心者でも気軽にキャンプを楽しめる。レンタル品が充実しているのも魅力だ。



ケビン



きららの里には、4区画に全15棟のケビンがあり、各棟にはバーベキューサイトも設置。家族やグループ等で、充実したアウトドア体験を楽しむことができる。



右上 / 8・9階の吹き抜けを活かしたサイエンススタジオ。ダイナミックなサイエンスショーは必見。

上・右 / 「日常から科学を探る」をテーマに、スケールの異なる5つのエリアで楽しみながら科学の原理を学ぶことができる「たんきゅうガレージ」。



日立シビックセンター 科学館 サクリエ

令和3年4月にリニューアルオープン。愛称の募集により、469件の応募の中から「サクリエ」に決定。「サイエンス」「クリエイション」「アトリエ」などを連想させる造語で、「花が咲く」とも聞こえる響きは、話に花が咲き、盛り上がり、人々が集うにぎやかな場所になるようにとの思いが込められている。



左 / <日立シビックセンター外観>。銀色に輝く天球劇場がトレードマークの建物。
右 / <たんきゅうガレージ「うちゅう」>。宇宙飛行士の目線になれる展示。

アウトドア派 / 中里エリア・豊かな自然に囲まれたレジャー施設

INFORMATION

- 【住所】 日立市入四間町 863-1
- 【TEL】 0294-24-2424
- 【営業時間】 9:00 a.m. ~ 5:00 p.m.
- 【定休日】 毎週(月)と年末年始
- 【入場料】 320円(大人)、100円(子供等)
- 【アクセス】
電車: JR常磐線日立駅下車、東河内行きのバスで30分
車: 常磐自動車道日立中央ICから10分



公式HPはこちら

山 間部に位置し、豊かな自然環境に囲まれた体験型レクリエーション施設「奥日立きららの里」。宿泊できるケビンやキャンプ場のほか、バーベキューテラス、アスレチック広場など、様々なアウトドア体験を楽しむことができる。
特に人気のアトラクションは、全長1,188m、高低差約70mを一気に滑り降りる、日本一長い滑り台「わくわくスライダー」。最高時速30kmに達するスライダーを操るのは1本のブレーキのみ。美しい自然を楽しむか、スリルを楽しむかはドライバー次第。令和3年4月には、「駄菓子屋きらら商店」5月には「きららカフェ」がオープン。思いっきり遊んだ後は、カフェで癒しのひと時を過ごすもよし、昔懐かしの駄菓子を楽しむのもよし。アウトドアの定番に加え、ちょっと変わった体験ができるのは、ここ「きららの里」だけかもしれない。

インドア派 / 日立駅周辺エリア・訪れる度に新たな発見が生まれる科学館

INFORMATION

- 【住所】 日立市幸町 1-21-1
- 【TEL】 0294-24-7731
- 【開館時間】 9:00 a.m. ~ 5:00 p.m.
- 【休館日】 毎月最終月曜日(祝日に当たる場合は開館)
- 【料金】

区分	大人	小・中・高校生、65歳以上の方
セット券	750円	300円
科学館	500円	200円
天球劇場	500円	200円

※障がい者、幼児は無料
- 【アクセス】
電車: JR常磐線日立駅中央口から徒歩3分
車: 常磐自動車道日立中央ICから8分



公式HPはこちら

平成2年に開館した「日立シビックセンター」。科学館やプラネタリウム、図書館など、市民が利用できる多彩な機能を備えている。中でも、人気の科学館は、令和3年4月に全面リニューアルオープンを果たした。
展示フロアは全て生まれ変わり、日本最大級の科学体験ジャングルジム「ためしてハニカム」をはじめ、体験装置で科学の原理を学べる「たんきゅうガレージ」など、わくわくドキドキ、子どもも大人も楽しめる展示が盛りだくさん。また、高さのある広い空間で迫力のあるサイエンスショーは、毎日午前・午後2回ずつ、楽しく科学を学べる実験ショーを開催している。
子どもは「少し大人」になり、大人は「子ども」に戻れる。生まれ変わった科学館は、そんな体験ができる多彩な仕掛けがいっぱい。

日立市かみね動物園 レッサーパンダの竹林

令和3年7月10日(土)にリニューアルオープン。令和2年7月から建設が開始され、屋外の放飼場だけでなく、空調設備の整った屋内放飼場も整備された。屋外放飼場には、将来、レッサーパンダが過ごしやすい「竹林」に囲まれた環境がつけられるよう、笹竹を植樹している。



迫力の展示と快適性を 兼ね備えた新獣舎

太

平洋を臨む小高い丘に位置し、昭和32年にオープンした「日立市かみね動物園」。野生に近い飼育環境での展示やエサやり体験、小動物とのふれあいイベントに定評のある茨城県内唯一の動物園である。

「レッサーパンダの竹林」は、令和2年7月から始まった猛獣舎整備事業の一環としてリニューアルしたものだ。造りは鉄筋コンクリート造の2階建て。屋内・屋外の放飼場の総面積は135㎡。「高いところが好き」という習性を考慮し、背の高いアスレチックや階段、梯子といった、高さを活かした工夫が施されている。また、鋭い爪を使って木に登ることが上手いレッサーパンダが脱走しないよう、飼育員が細かくチェックしている。

現在、4頭のレッサーパンダが飼育され、将来的に、繁殖による頭数の増加も想定し、6頭まで飼育できるスペースを確保している。令和5年の春頃には、2階観覧場が完成する予定で、高い場所でも過ごすレッサーパンダの様子を、より間近で観察することができるようになる。

レッサーパンダのリアルな生態と可愛らしい姿を観察できる、注目のスポットだ。

発行日 2021年7月発行

発行元 日立市シニアプロジェクト推進課 〒317-8601 日立市助川町1-1-1 0294-22-3111

日立市かみね動物園



日立市宮田町5-2-22 / ☎ 0294-22-5586 / 9:00～17:00(3～10月)・9:00～16:15(11～2月) / (定休) 元旦・大晦日 / 100～520円

楽しく入って、 学んで出られる動物園

太平洋が一望でき、開放感のある園内では約100種540点の動物たちに出会える。全国初のウミウと爬虫類の複合施設「はちゅうるい館」や、2020年12月にオープンした「ニホンザルのひろば」も必見。



公式HPはこちら



獣舎2階部分の壁際に設置された木製のアスレチック上でつろぐレッサーパンダ。



ひたちの魅力発信中
日立市公式 SNS

